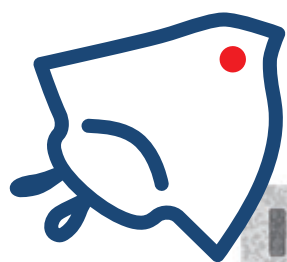


創立20年 の歩み



日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会

日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会
創立20年の歩み

目 次

ご挨拶 会長 橋本 敬	2
祝辞	3
• 山本 泰人（中央区長）	
• 立石 晴康（前東京都議会議員）	
日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会とは	4
設立趣旨／活動目的／活動エリア／まちづくりのコンセプト／ロゴマーク	
創立からの20年間の主な軌跡	6
創立時の運営体制	8
現在の組織と役員・幹事・事務局	9
日本橋地域再生に向けて 活性化の取り組み	
「首都高日本橋地下化」方針決定に至るまでの当委員会の活動	10
「日本橋かるた」の制作	11
日本橋船着場（双十郎河岸）の開設	12
日本橋観光案内所の開設	13
メトロリンク日本橋の運行	14
視察会〈視察調査実施年表〉	15
委員会の活動を支える各部会	
都市再生部会	16
河川再生部会	17
観光部会	18
地域振興部会	19
歴史・文化推進部会	20
広報部会	21
2020年委員会	22
座談会 この20年、そしてこれから——	23
協賛企業・団体	29

世界が注目する日本橋地域へ

日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会

会長 **橋本 敬**



おかげさまで日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会は2019（令和元）年10月1日に20周年を迎えることができました。これまでご尽力、ご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

日本橋地域には、江戸開府以来培われてきたまちの文化、地域社会、歴史的な建築物など数多くの資産が残されておりますが、当委員会は、これらを継承し、新しいまちづくりと調和させながら、次世代に向けたまちを創ることをコンセプトとして、日本橋地域全体の活性化に資するよう活動しております。

創立以来、無料バスの運営企画、「熙代勝覧」複製絵巻の制作・設置、「日本橋かるた」の制作および小学一年生への配布やかるた大会の継続実施、日本橋地域を覆う首都高速道路の撤去又は移設に向けた活動、「日本橋観光案内所」の設置活動等、様々な施策を諸団体の協力のもとに展開してまいりました。

来年は、いよいよ東京オリンピック・パラリンピック開催の年、当委員会でも関連したイベントを推進しておりますが、その後も見据え、諸団体と一層の連携を図りながら、国内のみならず世界から注目される日本橋地域のまちづくりに取り組んでまいります。

創立20周年にあたって

中央区長 山本 泰人



「日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会」創立20周年、誠におめでとうございます。

本委員会におかれましては、名橋「日本橋」を軸として日本橋全域の賑わいと活気を取り戻す事業に積極的に取り組んでいただきまして、厚く御礼申し上げます。

さて、日本橋川上空の首都高速道路の撤去につきましては、日本橋地域の皆さまが一体となって取り組まれた署名活動が実を結び、本年10月に地下化が都市計画決定されるなど、実現に向けた取組が着実に前進しております。さらに、その取組を契機に首都高速都心環状線の別線整備等が検討され、東京高速道路の上部を活用して緑の帯を創出するハイライン化の着想や、銀座と築地をつなぐ緑化空間等を創出する築地川アメニティ整備構想に結びつくなど、日本橋川の川面に光を取り戻す運動が都心に新たな緑をもたらす運動につながってきております。皆さまの取組は日本橋の再生にとどまらず、都心のイメージアップに大いに資するものであり、区といたしましても、本委員会を含め関係機関と緊密な連携を図ってまいります。

結びに、本委員会の益々のご発展と会員の皆さまのご健勝、ご多幸を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

創立当時の思い出

前東京都議会議員 立石 晴康



こんな故事があります。江戸日本橋の水は、遠く英国の首都ロンドンに流れるテムズ川の水に通じている。20年後の今の言葉で言いかえれば、日本橋上空の青空は、遠く宇宙の果てに通じている。

「日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会」は、1999年（平成11年）に100年という遠い未来に向けて創設されました。日本橋地域という日本橋をこよなく愛する日本橋地域全体の方々の為にとという思いからです。当時、バブル崩壊後の低迷するデフレ状況下であり、日本橋地域の有力な先達にご相談しました。当時中央区長の当委員会相談役矢田美英氏や当委員会初代会長を務めた明治座先代社長の三田政吉氏、当時三井不動産社長の当委員会副会長岩沙弘道氏という方々です。

あれから20年。光陰矢の如しという思いが去来します。今や、区や都や国が、この委員会の存在意義を認識し、地域活性化団体としての役割を果たしております。町会や大企業や中小企業など多くの経営者の方々、個人の皆様も参画して盛り上げてくださいました。

「日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会」が今後、設立の思いに寄り添って、益々ご発展されますことを心より念じてお祝いの言葉といたします。

日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会とは

設立主旨

江戸時代から文化・商業・情報の中心地として発展してきた私たちのまち日本橋がかつての賑わいを失いつつあります。文明・文化論、社会・生活論、経済・投資論、都市論等様々な角度から見て『都市の繁栄が国の繁栄を支える』との共通認識のもと、日本橋にかつての賑わいをとりもどし、「豊かな」しかも「潤いのあるまち」に再生を図ることが私たちの願いです。ついては、『日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会』（略称：日本橋ルネッサンス委員会）を設立し、まちづくりのあらゆる手法を駆使し、歴史的背景を見すえ、今後の100年を経済的・社会的・文化的な再生、具体的には日本橋地域の活性化と日本橋川の再生のビジョンを提言し、21世紀のまちづくり策を発信していくことを決意し、行動していきます。（1999年10月5日）

活動目的

1. 日本橋地域の再活性化を促進するための調査・提言および推進・支援
2. 日本橋川および亀島川の再生手法の提言および推進
3. その他、目的達成のために必要な活動

活動エリア

委員会の活動エリアは東京都中央区の日本橋地域（町名は「日本橋」とつくところと八重洲1丁目）を中心として周辺地域と協調しながら活動を行っています。



まちづくりのコンセプト

残すもの・蘇らせるもの・創るもの

江戸開府以来、五街道の起点が置かれた東京都中央区の日本橋地域は、日本の経済・金融・商業・物流・文化の中心地として、今日まで発展を遂げてまいりました。私たち「日本橋ルネッサンス委員会」では、これら日本橋地域のアイデンティティーともいえる歴史・産業・文化を継承し、将来に向かって進行する新しいまちづくりと調和させることにより、日本橋地域を「日本の顔」として再生（ルネッサンス）させることを目標に活動を展開してまいります。

日本橋地域には、長年培われてきたまちの文化、地域のコミュニティ、歴史的な建築物など、数多くの資産が“残”されています。私たちは、これらの個性ある地域の資産を次の時代に継承し、経済の発展と共に失われた自然や環境を“蘇”らせ、これらを将来に向けた新しいまちづくりの中で活かしながら、次世代に向けたまちを“創”ることを、「日本橋ルネッサンス委員会」のまちづくりのコンセプトとします。

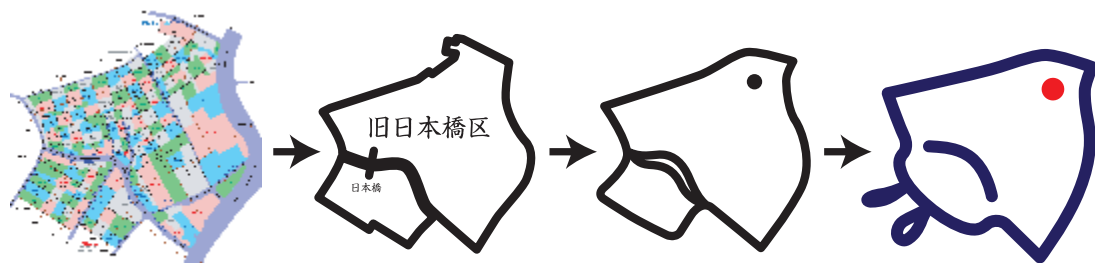
ロゴマーク

当委員会のロゴマークは、10周年記念事業の一つとして制作されました。

日本橋地域の更なる繁栄を祈念し、旧日本橋区の範囲がとてもよく「都鳥」の形状に似ていたことを元に創作された、可愛い都鳥の意匠です。

右上向き飛翔の図柄は、飛び立つ勢いそのままに右肩上がりの活況を示しています。日本橋界隈の活性化は、そのまま「日本が再び世界に飛翔し、これを牽引する」との思いから、日の丸に通ずる赤い目を配置しています（旧来の横山町～両国西広小路に通ずる界隈に位置する目は、文化・歴史、人々の交流点としての意味を持ちます）。また、物流の要であった近隣河川を強調する意味から、外野を紺青色としています（界隈に点在した紺屋より由来）。都鳥の足は京橋から東海道へ繋がる五街道の起点を表すことと、日本橋ルネッサンス委員会の創立10周年を意味しています。

（デザイン：塚田秀伸）



創立からの20年間の主な軌跡

第1期 1999年10月～2000年9月

- 1999. 7 発起人会開催
- 1999.10 設立発会式（第1回総会）開催
会長 三田政吉〔(株)明治座〕

第2期 2000年10月～2001年9月

- 2000.10 第2回総会開催
- 2000.12 「21世紀イベント“日本橋フェスティナレンテ”」を開催（2000.12～2001.2）

第3期 2001年10月～2002年9月

- 2001.10 第3回総会開催
- 2001.10 まちづくりのコンセプトを制作（目指すテーマ「残すもの・蘇らせるもの・創るもの」）
- 2002. 4 「日本橋周辺まちづくりに関する検討資料」を日本橋周辺地区再生検討委員会に提案

第4期 2002年10月～2003年9月

- 2002.10 第4回総会開催
- 2002.10 江戸開府400年記念事業「“ストリートアート”よみがえる大江戸パノラマ」を開催
- 2002.12 江戸開府400年記念事業“社会実験”中央通り「はな街道」を開催
- 2003. 3 「将来イメージCG」第1作を発表

第5期 2003年10月～2004年9月

- 2003.10 「中央区江戸開府400年『江戸東京“華”パレード』」に協賛
- 2003.10 江戸開府400年記念事業「大江戸アート展」を開催
- 2003.11 第5回総会開催
名誉会長 三田政吉
会長 山本恵造〔(株)山本海苔店〕
- 2004. 3 無料巡回バス「メトロリンク日本橋」運行開始
- 2004. 7 中央通り「はな街道」“フラワー・サポート・プログラム”を開始

第6期 2004年10月～2005年9月

- 2004.11 第6回総会開催
- 2004.12 中央通り「はな街道」“第1回歳末クリーンウォーク”を開催

第7期 2005年10月～2006年9月

- 2005.11 第7回総会開催

- 2006. 4 中央通り「はな街道」NPO法人取得
- 2006. 5 CG「日本橋サンデー」(最新)を発表

第8期 2006年10月～2007年9月

- 2006.12 第8回総会開催
会長 宮入正則〔(株)宮入〕

第9期 2007年10月～2008年9月

- 2007.11 第9回総会開催
会長 橋本敬〔(株)日本橋とよだ〕
- 2007.12 公式ホームページの開設
- 2008. 4 日本橋川清掃活動の開始・常盤公園桜祭り2008開催

第10期 2008年10月～2009年9月

- 2008.11 第10回総会開催
- 2009. 8 日本橋かるた「詠み句」募集（10周年記念事業）

第11期 2009年10月～2010年9月

- 2009.11 第11回総会開催
日本橋かるた「詠み句」発表・表彰式（10周年記念事業）
- 2009.11 「熙代勝覧絵巻再製プロジェクト」地下鉄銀座線三越前駅地下通路に設置（10周年記念事業）
- 2010. 3 「隅田川流域舟運観光連絡会」の立ち上げ（日本橋再生推進協議会「水辺再生研究会」）

第12期 2010年10月～2011年9月

- 2010.11 第12回総会開催
日本橋かるた「絵札」発表
- 2010.12 日本橋かるたの完成、中央区長及び各小中学校に贈呈（10周年記念事業）
- 2011. 4 日本橋船着場の完成
- 2011. 6 第1回「日本橋みちのく復興市」開催
- 2011. 7 「日本橋かるた」で子供達と街歩き（阪本小学校課外授業）

第13期 2011年10月～2012年9月

- 2011.11 第13回総会開催
創立10周年記念誌配布（10周年記念事業）
- 2012. 1 第1回「日本橋かるた大会」開催
（会場 常盤小学校）

2012. 7 「日本橋川清掃活動」が東京都河川ボランティア表彰を受賞

第14期 2012年10月～2013年9月

2012.10 第14回総会開催
2013. 1 第2回「日本橋かるた大会」開催
(会場 常盤小学校)
2013. 7 都市再生部会、メトロリンクの新たな東西路線の検討調査

第15期 2013年10月～2014年9月

2013.11 第15回総会開催
2014. 1 日本橋三越本店にて「日本橋かるたイベント」開催
2014. 1 第3回「日本橋かるた大会」開催
(会場 日本橋小学校)
2014. 7 NPO法人はな街道10周年事業花壇デザインコンペティションへ協力

第16期 2014年10月～2015年9月

2014.10 第16回総会開催
2014.10 第1回セミナー「水辺を活かしたまちづくり」開催
講師：陣内秀信氏（法政大学教授）
2015. 1 第4回「日本橋かるた大会」開催
(会場 有馬小学校)
2015. 3 第2回セミナー「水辺の未来へ 日本の水辺をパワーアップする!!」
講師：藤井政人氏（国土交通省）
2015. 6 第3回セミナー「江戸東京野菜の歴史と未来」
講師：高橋金一氏（小金井市農業委員会委員長）
2015. 9 「日本橋に青空を!」私たちの声を国会へ。
32万9,500名の署名と請願書を衆議院へ提出

第17期 2015年10月～2016年9月

2015.11 第17回総会開催
2016. 1 第5回「日本橋かるた大会」開催
(会場 久松小学校)
2016. 3 第4回セミナー「豊かなる日本の食文化」
講師：向笠千恵子氏（食文化研究家）

第18期 2016年10月～2017年9月

2016.10 第5回セミナー「魚を食べ続けるために」
講師：勝川俊雄氏（東京海洋大学准教授）
2016.10 EDO-FES／江戸芸術文化祭を開催

2016.11 第18回総会開催

2017. 1 第6回「日本橋かるた大会」開催
(会場 阪本小学校)

2017. 1 第6回セミナー「パラリンピックを通してバリアフリーを考える」
講師：福井正浩氏（元車いすラグビー日本代表／三井不動産ビルマネジメント所属）

2017. 3 第7回セミナー「『熙代照覧』に描かれた江戸の暮らし」開催
講師：江里口友子氏（江戸東京博物館学芸員）

2017. 6 「日本橋に青空を!」私たちの声を国会へ。
11万2,665名の署名と請願書を参議院へ提出

2017. 7 当委員会運営「日本橋観光案内所」オープン

2017. 9 日本橋アンバサダー育成プロジェクト開始

第19期 2017年10月～2018年9月

2017.10 第8回セミナー「明治の日本橋」
講師：木下直之氏（美術史家／東京大学教授）

2017.10 中央区の森視察会を実施

2017.11 第19回総会開催

2018. 1 第7回「日本橋かるた大会」開催
(会場 日本橋プラザ)

2018. 7 第9回セミナー「江戸日本橋の粹な酒、粹な食」
講師：小泉武夫氏（東京農業大学名誉教授）

2018. 9 第10回セミナー「慶長期の江戸城～「江戸始図」の再考～」
講師：齋藤慎一氏（江戸東京博物館学芸員）

第20期 2018年10月～2019年9月

2018.11 第20回総会開催

2018.11 当委員会運営「日本橋観光案内所」来場10万人突破

2018.11 第11回セミナー「写真の中の江戸」
講師：金行信輔氏（都市史研究家）

2019. 1 第8回「日本橋かるた大会」開催
(会場 日本橋小学校)

2019. 1 第1回日本橋アンバサダー勉強会

2019. 8 第12回セミナー「和菓子の魅力 日本橋編」
講師：畑 主税氏（高島屋和菓子バイヤー）

創立時の運営体制

日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会 役員（1999年10月）

（順不同・敬称略）

会 長	三田 政吉
副会長	山本 恵造 宮入 正則 細田 安兵衛 岩沙 弘道
相談役	矢田 美英 立石 晴康
顧 問	宮澤 一郎 富永 克子 高橋 伸治 神林 烈 青木 一雅 石島 秀起 坂戸 三郎 石田 英朗 常山 南洲 喜多川 誠
理 事	西川 甚五郎 井上 和雄 高津 伊兵衛 早川 章 田中 辰郎 山本 嘉兵衛 橋本 敬 平林 智司 小嶋 晴三郎 渡辺 誠之助 安部 正志(監事) 川瀬 鐵善(監事) 近藤 利雄 細谷 四郎 小堀 章三 成川 孝行 安西 暉之
幹事長	成川 孝行
副幹事長	橋本 敬 小嶋 晴三郎 酒井 英彦
幹 事	湧井 恭行 富田 蓮右衛門 泉沢 隆夫(会計補佐) 村田 長兵衛 宮本 重樹 角田 篤平 重盛 永造 永峰 豊子 築地 照吉(会計) 渡辺 正 栗原 健 上田 裕子 原 大行 堀口 宜子(会計補佐) 木村 好雄 柴田 享 加藤 一男 山田 晃子

歴代会長



初代 三田 政吉



第二代 山本 恵造



第三代 宮入 正則



役員

会長

橋本 敬 日本橋料理飲食業組合 元組合長
(株)日本橋とよだ 代表取締役会長

副会長

細田 安兵衛 (株)榮太樓総本舗 相談役
岩沙 弘道 三井不動産(株) 代表取締役会長
成川 孝行 日本橋六の部連合町会 常任相談役
湧井 恭行 日本橋一の部連合町会 会長
平野 熙幸 日本橋二の部連合町会 会長
中野 耕佑 日本橋三の部連合町会 会長
岩田 博 日本橋四の部連合町会 会長
高橋 伸治 日本橋五の部連合町会 会長
清水 貞男 日本橋六の部連合町会 会長
安西 暉之 日本橋七の部連合町会 会長
三田 芳裕 (株)明治座 代表取締役社長
宮入 正英 (株)宮入 代表取締役社長

理事

石塚 邦雄 (株)三越伊勢丹ホールディングス
代表取締役会長執行役員
井上 和雄 名橋「日本橋」保存会 名誉会長
岩熊 博之 平和不動産(株) 代表取締役社長
加藤 一男 割烹嶋村 代表取締役
村田 善郎 (株)高島屋 代表取締役社長
工藤 哲夫 ホテルかずさや 代表取締役社長
酒井 英彦 (株)大新 取締役社長
高津 克幸 (株)にんべん 取締役社長
田中 廣 (株)タナチョー 代表取締役社長
種橋 牧夫 東京建物(株) 代表取締役会長
中村 胤夫 名橋「日本橋」保存会 会長
七尾 克久 三井不動産(株) 日本橋街づくり推進部 部長
西川 八一行 西川産業(株) 代表取締役社長
西川 恵 昭和西川(株) 代表取締役社長
野永 喜一郎 (株)日本橋ゆかり 代表取締役
松岡 肇 中央区商店街連合会 会長
茂出木 雅昭 (株)たいめいけん 代表取締役社長
山本 嘉兵衛 (株)山本山 代表取締役会長
吉田 誠男 (株)伊場仙 取締役社長
日本橋みゆき通り街づくり委員会 会長
渡辺 秀次 (有)相鴨鳥安 代表取締役

幹事

幹事長

吉田 誠男 (当委員会理事)

幹事

湧井 恭行 日本橋一の部連合町会 会長
平野 熙幸 日本橋二の部連合町会 会長
中野 耕佑 日本橋三の部連合町会 会長
岩田 博 日本橋四の部連合町会 会長
高橋 伸治 日本橋五の部連合町会 会長
清水 貞男 日本橋六の部連合町会 会長
安西 暉之 日本橋七の部連合町会 会長
松岡 肇 東京中央大通会 会長
高津 克幸 日本橋北詰商店会 会長
工藤 哲夫 中央区ホテル旅館組合 組合長
二永 展嘉 日本橋料理飲食業組合 組合長
柴川 賢 人形町商店街協同組合 理事長
尾崎 和雄 東日本橋やげん堀商店会 会長
山田 耕之亮 日本橋久松料理飲食業組合 組合長
宮入 正英 横山町奉仕会 会長
野永 喜一郎 日本橋料理飲食業組合 常任相談役

相談役

山本 泰人 中央区長
立石 晴康 前 東京都議会議員
矢田 美英 前 中央区長

事務局（日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会）

事務局長

鈴木 佳之

次長

高村 寛子

次長

山中 美英

(敬称略)



事務局

日本橋地域再生に向けて 活性化の取り組み

「首都高日本橋地下化」方針決定に至るまでの当委員会の活動

1. 「日本橋」の歴史

- 1603年（慶長8年）江戸幕府開府とともに日本橋が架橋
- 1604年（慶長9年）旧五街道の起点（東海道・中山道・日光街道・奥州街道・甲州街道）
- 1911年（明治44年）現在の石造りの日本橋（20代目）に改架（平成11年、重要文化財に指定）
- 1963年（昭和38年）日本橋上空に首都高速道路が開通

2. 署名活動までの取り組み

当委員会では、「地域連携と活性化活動」を通じて、まちづくり活性化の事例を「視察・調査」し、日本橋地域における様々な「まちづくりの提案」を積み重ねてきました。この過程で、日本橋川上空の首都高速道路のあり方を検討する「日本橋みちと景観を考える懇談会」（2003年4月設立）に参加し、「新生お江戸日本橋」や「日本橋地域ルネッサンスのグランドデザイン」などを提案しました。

2005年12月、小泉総理大臣（当時）が有識者に日本橋上空に空を取り戻すことについて検討を依頼。

2006年9月、「日本橋川に空を取り戻す会」から首都高速道路移設の提言がなされました。これを受け、地元で「日本橋再生推進協議会」が発足し、当委員会も参加しました。当委員会は、この協議会の専門部会である「水辺再生研究会」において、「日本橋地域における水辺空間を活かしたまちづくり」を提案し、その中の提案のひとつが中央区の整備による「日本橋船着場」の設置に結実しました。

3. 署名活動

2013年9月、2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催が決定されたことを契機として、日本橋地域を分断する首都高速道路を撤去又は移設し、東京の中心「日本橋」から歴史・文化・景観・自然環境



署名活動

を重んじる、世界に誇れるまちづくりを目指すという理念を掲げて、名橋「日本橋」保存会、日本橋地域連合会とともに、首都高速道路の撤去又は移設を国会に請願する「署名活動」に取り組むこととしました。

- 2014年7月：第44回名橋「日本橋」橋洗い行事の際の通行人向け署名活動で本取組みを開始。
- 2015年9月：32万9,500名の署名を衆議院議長あてに提出。
- 2017年6月：11万2,665名の署名を参議院議長あてに提出。総計約44万2千人の署名が国会へ。



衆・参両院議長へ署名を提出



4. 「首都高日本橋地下化」方針決定

- 2017年7月、石井国交大臣、小池都知事が「日本橋周辺の首都高速の地下化に向けて取り組む」旨発表。
- 国・都・中央区等による地下化検討会を2017年11月1日第1回、2018年5月22日第2回開催。
- 2018年7月開催の第3回検討会后、検討結果が発表されました。計画では、事業完了まで10～20年。実現すれば、約70年ぶりに空を取り戻すことになります。



現在の日本橋
（西河岸橋より）



日本橋の将来CG

（2006年5月当委員会制作）

「日本橋かるた」の制作

「日本橋かるた」は、日本橋の「歴史」、「名所・旧跡」、「文化・偉人」などをテーマにした郷土かるたです。日本橋の歴史や文化を広め、日本橋地域の活性化につなげることを目的としています。

「日本橋かるた」ができるまで

1 創立10周年記念事業の一つとして制作が決定

第1回日本橋かるた実行委員会開催（2009年5月20日）

2 「詠み句」一般公募開始（2009年8月初旬）

3 「詠み句」選考（2009年10月下旬）

応募総数4,114句（全国38都道府県、8歳～92歳の一般応募者894名）から、日本橋ゆかりの有識者や地元代表の方々に選んでいただきました。

4 「詠み句」発表・表彰式（2009年11月中旬）

当会第11回総会にて「詠み句」47句を発表し、入賞及び審査員特別賞の授賞式を開催いたしました。

5 「日本橋かるた」制作

詠み句の「解説書」や「日本橋かるたMAP」と同時に制作を進め、2010年12月初旬に完成。12月中旬には、地元小中学校、主要な関係団体、詠み句受賞者などにお送りいたしました。

絵札デザイン：六代目歌川国政氏

6 「日本橋かるた」の今

完成した「日本橋かるた」は、かるたとして楽しむだけでなく、地域活性化に向けた活動に活用されています。具体的には、日本橋地域の小学生を対象にした日本橋かるた大会、付属の「日本橋かるたMAP」を使ってまちを歩くツアーを実施しているほか、「日本橋かるた」を英訳した「英訳かるた」を作成し、同時通訳付き英訳かるたツアーを行うなど、地域内外に発信しています。



日本橋かるた大会

2012年1月21日 第1回「日本橋かるた大会」開催

18チーム42名の児童が参加（会場 常盤小学校）

2013年1月26日 第2回「日本橋かるた大会」開催

15チーム42名の児童が参加（会場 常盤小学校）

2014年1月18日 第3回「日本橋かるた大会」開催

23チーム56名の児童が参加（会場 日本橋小学校）

2015年1月17日 第4回「日本橋かるた大会」開催

24チーム57名の児童が参加（会場 有馬小学校）

2016年1月16日 第5回「日本橋かるた大会」開催

31チーム75名の児童が参加（会場 久松小学校）

2017年1月28日 第6回「日本橋かるた大会」開催

41チーム101名の児童が参加（会場 阪本小学校）

2018年1月20日 第7回「日本橋かるた大会」開催

60チーム151名の児童が参加（会場 日本橋プラザ）

2019年1月19日 第8回「日本橋かるた大会」開催

64チーム211名の児童が参加（会場 日本橋小学校）



かるた化粧箱 石原慎太郎氏の題字



かるた解説書 分かりやすく詠み句に関わる事柄を解説



日本橋かるたMap
詠み句に関係する場所を江戸と現代の地図に表記

日本橋船着場（双十郎河岸）の開設

かつて舟運で栄えた日本橋の再生を目指し、中央区や名橋「日本橋」保存会などとともに働きかけ日本橋船着場の設置が実現しました。2011年春に、中央区の事業として日本橋の橋詰に船着場が完成し、4月3日には地元、関係者による安全祈願祭、同年の7月には

「双十郎河岸記念碑除幕式」が行なわれました。

5周年となる2016年の3月には利用者数が30万人を突破し、記念すべき30万人目の利用者には記念品が贈呈されました。

双十郎河岸に寄せて

細田安兵衛（榮太樓總本舗相談役）

「河岸」というのは江戸の言葉なんです。京都は「河原」、大阪は「浜」ですから。この（榮太樓總本舗）あたりは西河岸ですし、ほかにも魚河岸、米河岸、塩河岸、大根河岸と、かつて日本橋界限には河岸がたくさんありました。今辛うじて残っているのは浜町河岸くらいでしょうか。

この河岸という言葉をぜひ残したいという思いがあり、平成23(2011)年、日本橋架橋100年の記念に船着場ができた際、その船着場を双十郎河岸と名付けました。五街道の起点である日本橋は京都への出発点ですから、東西歌舞伎の大名跡、江戸ゆかりの十二代市川團十郎さんと、上方ゆかりの四代坂田藤十郎さんのお二人に船乗り込みをやっていただきました。二人の十郎で双十郎というわけです。日本橋に上陸いただいた後は、團十郎さんがこれも日本橋ゆかりの河東節で助六を、藤十郎さんは艶やかな藤娘をご披露くださいました。双十郎河岸には、日本橋と同じ稲田御影石で石碑を立て、お二人の名前はそれぞれの自筆、「双十郎河岸」の文字は前中央区長矢田美英さんに書いていただき石碑に刻みました。船乗り込みにはお二人のおかみさんも参加してください——團十郎さんは亡くなりましたが——いまだおかみさん達は、日本橋に双十郎河岸という名前がついたことを喜んでくれています。

日本橋の橋詰は、滝の広場、花の広場、元標の広場、乙姫広場という名前がついていますが、広場という

には狭すぎます（笑）。ぜひ、双十郎河岸という名前を積極的に使ってもらいたいものです。

また、川を通勤に使えるよう便数を増やしたり、羽田からの船便を定期的に運行するという企画も出ているようです。特に陸の輸送が困難になる災害時、舟運は重要な役割を担うことになるでしょう。これからは再び舟運の時代になると思います。



2011年7月31日 双十郎河岸記念碑除幕式

日本橋観光案内所の開設

日本橋観光案内所は、当委員会が運営主体となり、国内外から多くの観光客が訪れる日本橋地域において、多言語対応可能な観光案内所として機能しています。来街者の利便性を向上させ、外国人を含む旅行者の満足度及び再訪意欲を高め、地域の賑わいの創出・維持に寄与します。また、中央区観光情報センターをはじめとした中央区内の観光案内所との連携により、より広域な観光案内機能を持たせ、区内回遊の促進を図っています。日本の中心“日本橋”に相応しい趣を備えた観光案内所です。

平成29年7月23日、日本橋の橋の袂にある花の広場（中央区日本橋1-1-1）に新設された、日本橋観光案内所のオープニングセレモニーが開催されました。

日本橋観光案内所来場者10万人達成！

平成30年11月19日、開設以来約1年4カ月で、来場者数が10万人に到達いたしました。

当日は、当委員会の橋本敬会長、名橋「日本橋」保存会の中村胤夫会長が、10万人目のお客様をお迎えし、記念品の贈呈などのセレモニーが行われました。

10万人目のお客様は、親子でロシアから旅行にいらっしゃっていたオクサーナ・マモシキーナさん。来日2回目で日本全国を旅し、3日後にロシアに帰られる前に日本橋に立ち寄られたそうです。記念品の「日本橋かるた」と「笠仙の日本橋手ぬぐい」を手に喜びもひとしお。楽しい旅の思い出となったことと思います。



10万人目のお客様に記念品を贈呈

メトロリンク日本橋の運行

メトロリンク日本橋 発足と経緯

メトロリンク日本橋は八重洲・京橋・日本橋地域を結ぶ無料巡回バスで、「日本橋再生計画」の一環として地元企業をはじめとした協賛者会に支えられ2004年3月より電気バス2台（運行間隔15分）にて運行を開始しました。「地域の回遊性を高め、人々の交流を促す」を基本理念に、地元の足として、また来街者のおもてなしツールとして定着し、運行開始より1年で乗車人員は40万人を突破、2006年6月からは、バス3台の運行に増便（10分間隔）。年々利用者数も増え、現在では年間80万人を超えています。

運行は、(株) 榮太樓總本舗／鹿島建設(株)／清水建設(株)／信金中央金庫／大成建設(株)／大日本インキ化学工業(株)（現在の社名はDIC(株)）／東京建物(株)／(株) 東京都駐車場公社（現在の社名は(財) 東京都道路整備保全公社）／(株) 西川／三井不動産(株)／(株) 三越／八重洲地下街(株)／(株) 千疋屋総本店／(株) にんべん／(株) 山本海苔店／(株) 山本山／(株) 明治座／野村證券(株)／(株) タナチ

ョー／国分(株)／東京電力(株)の21社による協賛と名橋「日本橋」保存会、東京中央大通会、室町大通会、日本橋倶楽部、日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会の5団体による後援により開始。

現在では、協賛企業が28社にまで増加しています。

メトロリンク日本橋Eラインの誕生

2016年10月1日、メトロリンク日本橋に新たなルートが誕生。メトロリンク日本橋Eラインと命名されたこの新ルートは、東京駅八重洲口から浜町・人形町・兜町エリアまでを結び、来街者・エリア就業者の利便性向上を図るとともに、歴史的魅力をもつ同エリアの活性化を狙い開始されました。テーマカラーは日本の伝統色である山吹色に設定し、Eラインの「E」にはEDO（江戸）・Eco・East・Eat・Enjoyの意味を込めています。

メトロリンク日本橋・メトロリンク日本橋Eライン共に当委員会が企画・推進に強く関与しました。



メトロリンク日本橋



2016年10月1日
メトロリンク日本橋Eライン
運行開始セレモニー



視察会 〈視察・調査実施年表〉

第1回 2007(平成19)年10月 長野県小布施町

～まちづくりの成功事例を訪ねて～

小布施町まちづくりの顔の一人である小布施堂主人市村さんのお話を、江戸時代、葛飾北斎が訪ねてきたという門をくぐり、由緒あるご自宅でお聞きしました。〈参加者〉工藤理事、稲垣事務次長、阿部、田中、水戸部、小熊、篠生、林出、畠山

第2回 2008(平成20)年5月 徳島県徳島市新町川

～水辺環境浄化と水辺の活性化～

新町川の清掃からはじまり、水辺環境の再生から水辺からのまちづくり、森林資源の保護など、幅広い活動を展開している「新町川を守る会」の中村代表に、会が運営する船を操舵して新町川を案内していただきました。その後、活動概要を説明していただき、意見交換等を行いました。

〈参加者〉橋本会長、永森、水戸部、篠生、甲斐、松本、林出、福島、畠山

第3回 2008(平成20)年10月 福岡県北九州市紫川

～緑と水辺の再生事例研究～

北九州市は、国土交通省(当時建設省)のマイタウン・マイリバー事業で、紫川を軸とした様々なまちづくりを実施しました。北九州市の担当課にて、市のまちづくりとマイタウン・マイリバー事業の説明を受けるとともに、現地を案内していただきました。また、地元まちづくり団体の代表、新井さんの話をお聞きすることができました。

〈参加者〉橋本会長、田中、古谷、水戸部、篠生、岩崎、林出、畠山

第4回 2012(平成24)年10月 富山県富山市

～LRTを活用したコンパクトシティと舟運～

江戸時代に北前船で栄えた大町新川町通りのほか、市内を走るLRT、自転車の共同利用システム「サイクルステーション」、富山城下の松川の舟運、富岩運河などを視察しました。

〈参加者〉橋本会長、茂出木、水戸部、萩谷、松本、篠生、松岡(喜)、岩崎、畠山

第5回 2015(平成27)年7月 宮城県石巻市・南三陸町

～防災対策とまちづくり～

東日本大震災から4年が経過し、さまざまな復興活動が行われている石巻市と南三陸町。石巻市では副市長、南三陸町では町長を表敬訪問し、担当者の案内のもとそれぞれ被災地を視察しました。

〈参加者〉橋本会長、松岡(肇)、吉田、松本、七尾、畠山、小熊、小室、岩崎、鈴木、篠生、村上、小野寺、宮崎

第6回 2016(平成28)年7月

三重県松坂市、大阪府大阪市

～日本橋地域のルーツと水辺を活用した地域活性化～

江戸時代五街道の起点として大いに賑わった日本橋地区の商いを支えた伊勢・松阪商人のルーツを尋ね、また、水都として栄え水辺を活用した地域活性化に取り組む先進的な都市である大阪市に日本橋地域の取り組みのあり方を求めました。

〈参加者〉橋本会長、湧井、松岡(肇)、吉田、茂出木、工藤、上田、小西、水戸部、坂浦、小熊、松本、萩谷、渡辺、畠山、小室、橋口、池田、穴戸、塚田、小林、安永、柴床、鈴木、石井

第7回 2017(平成29)年5月 ベトナム

～「日本橋」と国際的視点～

江戸時代松阪商人による日本人町が形成されていたベトナム中部の町ホイアンには、「日本橋」という名の橋が現存しています。ホイアンでは市幹部への表敬訪問を行ったあと「日本橋」を中心に市内を視察。また、北部のハノイ、南部のホーチミンといったそれぞれ違う色を持つ都市を視察しました。

〈参加者〉吉田、飯山、石井、岩崎、岩田、鹿島、工藤、堺、笹井、鈴木、竹内、七尾、新野、野永、萩谷、橋口、福田、松岡(肇)、水戸部、茂出木、湧井、渡辺、安永、柴床

第8回 2018(平成30)年5月 鹿児島県

～鹿児島の歴史・文化を活かした観光～

西洋技術をいち早く取り入れ、近代日本の先駆けとなった鹿児島は2018年のNHK大河ドラマ「西郷どん」でも注目を集めました。万治元年(1658)に築かれた島津家別邸「仙巖園」から、第二次世界大戦の貴重な資料を収集・保存・展示する特攻平和会館(知覧)まで、鹿児島の歴史・文化を活かした観光地を視察しました。

〈参加者〉橋本会長、湧井、岩田、安西、吉田、松岡(肇)、七尾、山中、橋口、奥秋、芹沢、池田、工藤、新野、高村、石井、堺、岩崎、江波、小熊、木村、良田、柴床

第9回 2019(令和元)年6月 高知県四万十

～四万十川流域再生の取り組み～

「日本最後の清流」ともいわれる全長196kmの一級河川、四万十川が流れる高知を訪れました。水辺の活性化対策に係る見識並びに提言力を醸成するため、四万十川、四万十市役所を訪れ、隅田川と友好河川提携の関係にある「四万十川」流域再生の取り組み状況を学びました。

〈参加者〉橋本会長、吉田、岩田、野永、茂出木、渡辺、清水、岡澤、橋口、池田、木村、栗原、小山、萩谷、水戸部、小熊、新野、奥秋、中川、石井、鈴木、影山、石川、柴床

委員会の活動を支える各部会

都市再生部会

「都市再生と水辺再生の視点から日本橋地域のまちづくりを検討・提案・推進」することを目的に発足しました。当初より首都高速道路の撤去・移設に関する要望書の提出や、署名活動に関し企画・検討をしてまいりました。また、東京都が実施した日本橋川「川床」の豊年萬福「かわてらす」につき、無事河川占用の継続につなげることができました。

日本橋川の美化を目的に実施している日本橋川清

掃につきましては、地元関係者の参加のもと54回を数えております。

その他、周辺地域との連携活動として日本橋再生推進協議会「水辺再生研究会」、隅田川流域舟運観光連絡会、日本橋川・亀島川流域連絡会、常盤橋フォーラム等に参加し、日本橋地域と周辺地域との連携を行っております。



日本橋船着場



日本橋川清掃活動

都市再生部会メンバー

工藤 哲夫（部会長）

石井 亮一（事務長）

岩崎 武彦

小室 進示

萩谷 眞佐夫

橋口 芳幸

村上 雄一

我妻 一郎

岩本 公宏

白井 明

沖藤 吉弘

清水 信之介

中村 雅彦

松島 毅

山中 美英

遠藤 明雄



河川再生部会

河川再生部会は日本橋川の景観や水環境の再生を通じ、日本橋地域の発展を目指すための方策を検討していく部会です。

本来、日本橋川は江戸の町を支える物流(水運)機能、さらに江戸らしい景観形成をするための象徴としての機能を有していました。しかし戦後の経済発展の波の中で、いつしか水運は自動車物流(高速道路)に置き換えられ、さらに都市の象徴としての景観形成機能は、忘れられました。

我々、河川再生部会は、失われた都市景観を取り戻し、水辺の潤いと賑わいの復活を目指します。日本橋川を覆い、太陽の恵みを奪ってきた高速道路を移設し、

河川水質を改善、日本橋地域の賑わいと景観形成の核としていくための施設づくりを検討していきます。

現在、首都高の移設事業が決定し、本格化していく中、河川再生部会は移設事業の進捗を注視しつつ、移設後の川づくりの検討を行っていきます。例えば、賑わいの核となる滝、噴水などの修景施設、水質浄化のための施設、清冽な地下水の導入、緑陰や回遊空間の形成、水上交通の導入など、様々な施策を検討していきます。

河川再生部会は今後、国内外の先進事例等を研究し、日本橋ならではの川再生プランの策定を目指す所存です。



2019年1月30日 渋谷ストリーム視察 見学前の説明



渋谷ストリームを実際に見学



河川再生部会メンバー

川田 利博 (部会長)	大志万 延也
小熊 雅弘 (事務長)	濱田 捷利
萩谷 眞佐夫	吉田 誠男
村上 雄一	渡辺 秀次
赤岡 正博	石井 亮一
北村 賢治	
塚田 秀伸	
畠山 隆史	
水戸部 雅昭	

観光部会

「日本橋地域の観光振興を目指し、全国及び世界からの訪問者を誘致する魅力づくりや取組みを検討・提案・推進」することを目的に活動しております。

平成24年度より会員企業を中心に協賛を募り東京観光財団発行の「東京トラベルガイド」内に「日本橋編」の記事広告を掲載し、現在9言語に対応して多くの外国人観光客にガイドブックとして活用されております。

2017年に中央区の支援のもと開設しました「日本橋観光案内所」は、増加する外国人を含む全ての観光客に日本橋の魅力を伝える重要な拠点となっておりますが、当部会はこちらの設置・運営も行ってお

ります。

また、毎年11月に開催される「中央区まるごとミュージアム」において、日本橋地域の魅力を広く告知する為のアイデアを検討し企画・実行しております。この事業は地域振興部会と合同で継続して参加しております。

さらに、舟運観光の活性化に向けて隅田川流域舟運観光連絡会に参加し連携をはかるとともに、舟運観光をより活性化すべく発足した「舟運観光活性化ワーキングチーム」に都市再生部会と共に参加して活動を行っております。



2015年11月1日 まるごとミュージアムの様子

観光部会メンバー

工藤 哲夫（部会長）	中島 憲一
石井 亮一（事務長）	西沢 郷
岩崎 武彦	信坂 留吉
橋口 芳幸	橋本 良識
白井 明	畠山 隆史
清水 信之介	平井 良昌
松島 毅	松原 圭
赤岡 正博	水戸部 孝子
粟原 栄二	武者 充俊
池田 伸之	山田 晃子
江波 和夫	柴床 恵美
大野 悦司	中島 由圭里
小林 益久	大津 貴弘
唐戸 和彦	奥秋 慎司
湖山 由三	加藤 友晴
嶋崎 琢也	岡澤 裕章
田中 伸幸	木村 尚樹
塚田 秀伸	大竹 萌
島山 貴弘	早瀬 仁人



地域振興部会

地域振興部会では、日本橋地域の振興・活性化を目的とした取り組みを行っています。

2004年には八重洲、京橋、日本橋地区において約10分間隔で運行する無料巡回バス「メトロリンク日本橋」、2016年からは東京駅八重洲口から浜町・人形町・兜町エリアまでを約22分間隔で結ぶ新たなルート「メトロリンク日本橋Eライン」の運行を支援しています。またそのほかにも、中央区コミュニティサイクル普及促進に向けた実証実験とポート増設の支援・協力、NPO法人はな街道や、中央区まるごとミュージアムの活動支援などを行ってまいりました。

さらに昨年より、海外からの来街者へのおもてなしの一環として、来街者が無料で使用できるWiFi環境の普及を目指した日本橋ルネッサンスFree WiFi設置促進事業を行っています。本事業は、現在、日本橋料理飲食業組合と久松料理飲食業組合のご協力のもと、行政の整備する公共空間におけるWiFi環境を補完する形で個別の店舗への導入促進を進め、地域全体におけるWiFi利用の改善を目指すものです。

地域振興部会では、今後もこれまでの取り組みを継続しながら新たなチャレンジもしていくことで、地域の活性化に貢献してまいります。



メトロリンク日本橋Eライン

地域振興部会メンバー

鹿島 彰（部会長）	西沢 郷
藤井 顕司（事務長）	中島 由圭里
岩崎 武彦	加藤 友晴
村上 雄一	小熊 雅弘
藤枝 昭裕	竹内 章雅
中村 雅彦	竹本 章
小林 益久	新野 圭二郎
平井 良昌	二永 展嘉
嶋崎 琢也	芹沢 弥穂
塚田 秀伸	石井 亮一
鳥山 貴弘	田中 徹
中島 憲一	神谷 晴江



2020年委員会との合同開催

歴史・文化推進部会

当部会は、日本橋地域の歴史や文化を掘り起こし、勉強会やセミナー等の各種イベントを企画・実施し、次世代に継承することを目標としてきました。また、地元文化への造詣を深め、日本橋と深い関わりのある国や地域と歴史・文化を通じての交流を行い、日本橋の伝統文化の発信基地として次の具体的活動を行っています。

【その1】江戸の歴史・文化を探究・深訪するための文化プログラム「日本橋を掘り起こす」シリーズを実施。

内容は次の通り。

第1回「地域文化」：隅田川に沿う東日本橋を掘り起こす。

第2回「食文化」：徳川将軍12代の食事を再現。徳川宗家第18代当主徳川恒孝氏講演。

第3回「地域文化」：「英訳日本橋かるた」による外国人ツアー開催。

第4回「技文化」：「江戸線香花火の会」江戸花火師伝統の線香花火を使用。子供達に本物に触れる機会を提供。NHK『おはよう日本』取材、放映。

第5回「海外交流」：ベトナム・ホイアン市と日本橋及び松坂市を結ぶ文化交流会を実施。日越交流事業とJICAへの協力。

【その2】「日本橋かるた」の継続実施

「英訳かるた※」を考案・作成。活用した同時通訳付き英訳かるたツアーを開催。

大会は、第3回より第8回まで日本橋地域の小学校を巡回開催することにより、小学生へ生まれ育った地域の文化の伝承を行っている。また、かるた普及活動として日本橋地域の各小学校へ配布。

さらに、次世代に継承していくことを目的として、「子供対象の体験学習・講演会」等を実施しています。

※平成27年度に東京都産業労働局観光部振興課地域資源発掘に認可。
英訳版の題字は徳川宗家第18代当主徳川恒孝氏が揮毫。



江戸線香花火の会



日本橋かるたを日本橋地域内の小学校に配布



歴史・文化推進部会メンバー

渡辺 秀次（部会長）	熊倉 千砂都
水戸部 孝子（事務長）	古賀 賢治
橋口 芳幸	清水 紀男
岩本 公宏	相馬 亜紀
江波 和夫	蛸 俊夫
大野 悦司	中野 吉明
小林 益久	長沼 敬憲
嶋崎 琢也	堀内 貴栄
橋本 良識	茂出木 雅章
水戸部 雅昭	石井 亮一
良田 泰久	岡澤 裕章
柴床 恵美	木村 尚樹
奥秋 慎司	及川 秀悟
川崎 晴喜	高山 みな子
吉田 誠男	中島 由圭里
新野 圭二郎	濱田 捷利
二永 展嘉	川口 修一郎
大島 博	



広報部会

会員向け広報や外部向け情報発信に関する諸施策を企画・実施しています。定期的なホームページの更新や委員会リーフレットの改訂・発行、中間報告書および期末の事業報告書の作成のほか、当委員会オリジナルセミナーを企画・実施。これまでに12回開催いたしました。

2014年10月21日 「水辺を活かしたまちづくり」

講師：陣内秀信氏（法政大学教授）

2015年3月2日 「水辺の未来へ 日本の水辺をパワーアップする!!」

講師：藤井政人氏（国土交通省）

2015年6月26日 「江戸東京野菜の歴史と未来」

講師：高橋金一氏（小金井市農業委員会委員長）

2016年3月10日 「豊かなる日本の食文化」

講師：向笠千恵子氏（食文化研究家）

2016年10月25日 「魚を食べ続けるために」

講師：勝川俊雄氏（東京海洋大学准教授）

2017年1月30日 「パラリンピックを通してバリアフリーを考える」

講師：福井正浩氏（元車いすラグビー日本代表／三井不動産ビルマネジメント所属）

2017年3月16日 『『熙代照覧』に描かれた江戸の暮らし』

講師：江里口友子氏（江戸東京博物館学芸員）

2017年10月4日 「明治の日本橋」

講師：木下直之氏（美術史家／東京大学教授）

2018年7月2日 「江戸日本橋の粋な酒、粋な食」

講師：小泉武夫氏（東京農業大学名誉教授）

2018年9月26日 「慶長期の江戸城 ～“江戸始図”の再考～」

講師：齋藤慎一氏（江戸東京博物館学芸員）

2018年11月30日 「写真の中の江戸」

講師 金行信輔氏（都市史研究家）

2019年8月28日 「和菓子の魅力 日本橋編」

講師：畑 主税氏（高島屋和菓子バイヤー）



セミナーの様子

広報部会メンバー

堺 美貴（部会長）
福田 温子（事務長）
岩崎 武彦
岡澤 裕章
鈴木 佳之
高村 寛子



2020年委員会

2020年委員会は、オリンピック・パラリンピック東京2020大会に向けて各部会の協力のもと2016年に発足した委員会です。

日本橋（江戸東京）の文化を世界に向けて伝える活動に取り組んでおり、2017年に内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局の支援を受け、内閣官房文化プログラム「beyond2020」認証事業として継続的に「日本橋アンバサダープロジェクト」を進めています。

本プロジェクトは、学生（留学生を含む）と地域の企業就労者を中心に、日本橋文化を理解し、その魅力

発信に積極的な人材を「日本橋アンバサダー」として育成し、日本橋で開催されるイベント等で、ボランティア活動に参加してもらうことにより、オリンピック・パラリンピック東京2020大会を契機に「日本橋ブランド」を国内外へ発信していくことを目的としています。過去には、紙漉きや団扇への絵付け、江戸切子細工といった体験ワークショップ、日本橋川のクルーズツアーなどを開催、基礎的な日本橋の知識を深めるための勉強会の開催も始まりました。

今後は文化庁「日本博」とも連動して進めてまいります。



日本橋アンバサダーによるまち歩きツアー

2020年委員会メンバー

鹿島 彰（委員長）
 堺 美貴（副委員長）
 川田 利博（副委員長）
 立石 晴康（特別顧問）
 藤井 顕司（事務局長）
 相馬 亜紀（事務局次長）
 水戸部 雅昭（会計）
 工藤 哲夫（参与）
 吉田 誠男（参与）
 鈴木 佳之（参与）
 岩崎 武彦
 村上 雄一
 藤枝 昭裕
 清水 信之介
 江波 和夫
 嶋崎 琢也
 鳥山 貴弘
 西沢 郷
 小熊 雅弘
 竹内 章雅
 新野 圭二郎
 三宅 祐介
 二永 展嘉
 芹沢 弥穂
 福田 温子
 門前 翔平
 石井 亮一
 神谷 晴江



地域振興部会との合同開催

この20年、そしてこれから——

2019（令和元）年7月25日、日本橋プラザ会議室にて座談会を開催。委員会創立からこれまでの活動を振り返り、これからの日本橋地域と当委員会のあり方について意見を交換しました。

出席者（敬称略）



橋本 敬（会長）



吉田 誠男（幹事長）



工藤 哲夫
（都市再生部会長・観光部会長）



鹿島 彰
（地域振興部会長・2020年委員会会長）

司会進行



鈴木 佳之（事務局長）

ルネッサンス委員会創立当時、寂しかった日本橋

鈴木 記念誌『創立10周年のあゆみ』の中に「代表発起人名簿」があって、26名のお名前が記されています。ルネッサンス委員会はこの26人で始まったわけですね。創立時の運営体制も掲載されていて、いろいろな部会が紹介されていますが、企画部会が中心に活動していたようです。企画委員長の山柘勝彌さんが、設立の思いということで「残すもの」「蘇らせるもの」「新しく創るもの」をまちの再生のキーワードとしていると書かれています。1999年の創立時は東急百貨店が閉店して、まちの火が消えたような状態でもあったようです。

橋本 ルネッサンス委員会の発足当時のことはわかりませんが、息子が部会には入っていましたが。

鈴木 当時の日本橋は、賑わいがだいぶ消えていたような……

橋本 東急百貨店の閉店はテレビでも放映されました。そういう状況だったので、日本橋には未来がないと言った人もいたのですが、その後、三井不動産の再開発事業が始まり、三越の新館ができ、マンダリン（オリ

エンタルホテル）ができと活気が出てきました。

鹿島 ルネッサンス委員会が立ち上がった年に、委員会がコンペで募集し、更地になった東急の跡地にHONBAくん（巨大なグリーンアート）が登場しました。名橋「日本橋」保存会と、ルネッサンス委員会が母体となった日本橋21世紀イベント実行委員会主催の「日本橋フェスティナレンテ」の一環でした。当時は三田政吉会長がご健在で、まちぐるみでの活動がルネッサンス委員会につながって、山柘さんと稲垣（文隆）さんが一生懸命に動かれました。地域全体でのまとまった活動となり、玉ひでの山田（耕之亮）さん、小網神社の服部（匡記）さんらの人望があつく、人形町界限をまとめました。

工藤 あの頃の日本橋は本当に寂しかった。コレドもないし、ビルの一階には銀行が入っていて夕方にはシャッターが降りてしまうから、夜になったら真っ暗でした。

橋本 三田会長から、日本橋でなにかやるのなら日本橋の橋のあたりだけでやってもだめだ、日本橋全体が賑やかになるようじゃなくちゃだめだと言われまして。ルネッサンス委員会が中心になって誘致して、2016年に走ったバス（メトロリンクバスEライン）なんかは水天宮界限でも喜ばれています。日本橋全域でやることに意味がありますよね。

行政、自治体、企業がともに取り組むはな街道、橋洗い、クリーンウォーク……

鈴木 ゼネコンもメンバーに入っていました。

橋本 当時は会全体があまりうまく機能していなかつ

たかもしれません。

鈴木 企画委員会だけが機能していた？

工藤 動ける人間に限られていて企画委員会をやるので目一杯でした。

鹿島 企画委員会の中から山田晃子さんのOLくらぶ、それからはな街道といった活動が生まれました。

工藤 活動できる人が出てきたから、今はいろんな部会がありますけれど。

鈴木 はな街道は大きな仕組みで実現しましたね。

鹿島 最初は首都高の問題で国交省と窓口ができて、そこからです。それまであったシャリンバイが枯れて、中央通りに木を植えようという話が出て、花にするんだったらクレームもつかないんじゃないかと。実際、花を植えたら評判が良かったんです。でも予算がつかない、なんとかならないか、ということで今のシステムができました。

工藤 水奉行、花奉行とか役割分担ができて。花がきれいだけでなく、みんなが意識を向けて、いい効果も出てきました。地上スレスレに植えてある花だから、通り全体の見晴らしも良くなりました。

鹿島 こういった活動は日本中に広まってきました。会社のロゴを公道の看板に入れられるという工夫が受けています。それも民間企業が半分お金を出しているからできることで、日本で初めての仕組みです。

工藤 花植え、クリーンウォーク等の活動は、行政や自治体、民間企業がうまく連携しています。

吉田 かつては橋洗いも人が少なかった。

橋本 最初は町会の青年部が始めて、彼らが中心になってやっていたんですよ。

工藤 今では大勢が参加するようになりました。企業の半纏をきた人が集まってくるというだけでも意味があります。

CGで再現、高速道路の取れた日本橋

鈴木 1999年は金融危機の余波があったと思いますが。

吉田 永代通りが倒産通りといわれました。

鈴木 その後ビルもできて、やはり三井不動産の存在が大きかったのでしょうか。三井さんはルネッサンス委員会の活動にも最初から積極的でしたか？

鹿島 当時は山根さんの影響力が大きかったですね、あとは阿部（宗吉）さん。

工藤 三井不動産の中に、日本橋まちづくり推進部ができましたから。

鹿島 再開発で最初にできたのが、コレド日本橋です。ルネッサンス委員会の成り立ちについて僕のイメージ

だと、大成建設が中心に活動が始まり、そこに三井さんも入ってきて、ゼネコンの勉強会になってという、僕はそういう認識でした。

工藤 掲げた目標は正しかったんですが、当初は企業とまちの活動が融合するのが難しかった。それがはな街道の活動などが実を結んできて、徐々に当初の狙いのような形になってきた。

橋本 三井不動産は大企業なので、区にも入ってもらって、地元も一緒に活動しましょうと。ちょうどスカイツリーができた頃で、スカイツリーができたことで地元の商店会が全滅したというようなことも報道されていました。そうならないよう中央区に入ってもらって、地元の話をよく聞くようにと中央区にバックアップしてもらって。我々じゃ太刀打ちできないですから（笑）。



橋本敬会長

吉田 CG（高速道路の取れた日本橋のまちのイメージ）ができたのは？

鈴木 2006年5月です。

吉田 あれはインパクトがありました。

鈴木 制作費が1000万円近くかかったそうです。

工藤 あれを観るとモチベーションが上がりました。

鹿島 あれは、最初は国交省がプレゼンで出したものだそうです。当時、学生工房という組織があって、ジオラマを作っていました。

橋本 学生工房は学生だからメンバーが変わっていくんですよ。

鈴木 マスメディアからあのCGを貸してくれという要望が多いんです。また新しいものを作らないといけませんね。

東西南北まちをつなぐ、メトロリンク日本橋

鈴木 2004年にメトロリンク日本橋が誕生しました。これもルネッサンス委員会が中心でしたか？

工藤 日の丸自動車さんが、丸の内やお台場で無料バスを成功させていて、日本橋でもやりたいがバス会社の意向だけでは難しいので、ルネッサンス委員会に協力を仰いできたんです。東京駅と日本橋って近いという印象がなくて……あのバスができたことで、東京駅から三越さんと高島屋さんとかに行き来できるようになりました。

鈴木 2016年10月には、日本橋の東西を結ぶメトロリンクEラインができました。

橋本 向こう側（東側）の人も喜んでますよ。

鈴木 あれは地域振興部会が担当しましたが、資金集めに会長が苦勞されて……。

工藤 結果として便利になったことは事実、思った以上に便利ですよ。

鹿島 東京シティエターミナルT-CATに乗り入れができると（効果が）大きい。歩行者の動線が確保できれば、いつでも乗り入れできます。

工藤 東京駅八重洲の再開発でバスターミナルができると、また流れが変わってきますね。

徹夜で選句、日本橋かるた

鈴木 日本橋かるたはいかがでしょう。作った時の模様が「創立10年のあゆみ」にも出ています。今や日本橋かるたはルネッサンスの財産みたいになっていて、見方によっては、かるただけやってるのかと（笑）。毎年、日本橋の小学校を順繰りに回って、かるた大会を開催しています。

橋本 今度はどこ？

鈴木 今年が日本橋小学校でした。もう8回も開催しています。当初、吉田幹事長も関わっていらっしゃる？

吉田 工藤さんです。

工藤 最初は（一般公募の読み句の）応募がどれだけくるのか心配でしたが、今日は10通……という感じが、100通位になったらあっという間に4000通になりました。逆に絞り込むのが大変で、苦勞しました。選考委員に選んでもらうために、4000を200とか100に絞り込むわけですよ、その作業が徹夜作業になりました。

鈴木 読み句は日本橋を象徴するような文言です。

工藤 いい読み句になったと思います。ただし、どうしても橋の周辺の読み句に偏ってしまうので、地図上に印をつけながらできるだけ偏りのないように選んでいきました。もう一つ、絵描きの歌川国政さんの存在も大きかった。予算もないし、版權や予算の問題など苦勞しましたね。いろんな人がそれぞれ得意な分野で交渉して出来たと思います。

鈴木 絵がおしゃれ、と評価されています。郷土かる

たっていろいろありますが、日本橋かるたの絵は洗練されています。

橋本 色っぽい（笑）。

工藤 しゃれたものにしたいという思いが強くなりました。国政さんが候補を何枚も描いてきてくれるわけですよ、それをこっちがいいとか言いながら選んでいました。

鈴木 小学校が授業でも取り上げているそうです。

工藤 思いとしては、日本橋の歴史や文化を子供達にも知ってほしいと。モデルになったのが上毛かるたで、日本橋でも同じように子供達にそらんじてもらいたいと願い……今そのようになりつつあります。

橋本 常盤小学校にはお座敷ができたので、そこでやれますよ。

舟運の時代に向けて、日本橋の船着場

鈴木 日本橋の船着場についても記念誌に掲載されていますが、ルネッサンス委員会との関わりは？

吉田 これは名橋日本橋保存会の活動ですね。

吉田 誠男氏



橋本 羽田沖からの船便や、また通勤の船便もできればいいと思いますね。

工藤 船着場ができたのは、日本橋架橋100年に合わせた2011年ですよ。スカイツリーも開業直前で、これからは舟運の時代がくると。我々としてはぜひお願いしたいということで、協力しました。船をチャーターして羽田までの航路の可能性も実験しました。

橋本 日本橋の船着場から船に乗って、いつでも日本橋から浅草まで行けるような、そういうふうになるといいですね。浅草、日本橋、羽田、この路線を太くしていつでも乗れるような。

集まった、44万2000の署名

鈴木 首都高の撤去、または移設請願の署名活動を

2015年くらいから始めました。実際に2016年に衆議院に提出し、2017年6月には参議院にも提出しました。

橋本 署名は44万2000集まりました。あれは、地元有力者の友人が二階幹事長（自民党・二階俊博）の先輩か後輩かで、そういうご縁があるので、二階さんと菅さん（自民党・菅義偉）に会いに行かないかということをお願いに行ったんです。二階さんにそういう話をしたのが大きかった。

工藤 その前の小泉政権の時に扇大臣（自民党・扇千景）が取りましょと発言してくださいました。うまくいくかと思ったら、大臣も政権も変わって、それで今のような話になりました。

鈴木 署名を参議院に提出して1年後、「首都高日本橋地下化」について発表されました。日本橋観光案内所についてはいかがでしょう。

工藤 我々としては悲願でした。コレド室町の地下にはありましたが、日本橋の際にあって橋の見える案内所というのが理想です。

橋本 野村證券にお願いに行ったり。

工藤 中央区が明治屋跡を再開発して区の案内所を作るという案がありました。京橋に作ってもいいけど、なかなか人が集まらないのではないかという懸念があり、銀座や日本橋と連動させたほうがいいと提案しました。結果的には銀座、築地とできて、では日本橋はどこに、ということになって日本橋の橋詰・花の広場に出来たわけです。最終的に京橋が本部となり、銀座・築地・日本橋が支部となって理想的な体制が出来ました。



工藤
哲夫
氏

オリンピック・パラリンピックを 日本橋でも盛り上げよう、2020年委員会

鈴木 現在の活動ですが、来年2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日本橋でも盛り上げようと、日本橋アンバサダー育成プロジェクトができました。

鹿島 日本橋を訪れる外国人や若い人たちに日本橋をわかってもらうため、ということで立ち上げました。当初は学生を中心に始めたのですが、先ほど学生工房の話でもあったように、やはり学生だと入れ替わりが多いのと、授業の都合などで約束ができない。また、万が一事故が起こった時のことなど考えると、学生にどこまで任せられるかという……やってみてそういうことがわかりました。それで企業にやってもらうのがいいんじゃないかと。これも昨年1年間やって、経験もできたので、今後も継続してやっていきたいと思っています。日本橋まつりなどで人が集まる時は、多言語が必要となってきますが、その部分が弱いので強化したいという課題もあります。また、案内する側にも日本橋の文化を勉強してもらわなければなりません。このように継続してゆく中で課題もありますし、内閣官房や中央区からもこの活動に対するリクエストは多いのですが、なにせお金がない（笑）。みなさん、ボランティアで参加しています。時間の制約とリクエストは多いのですが予算がつかないのが現状です。

鈴木 補助金が出た時期もありますが、なかなか継続的には出ませんね。またお願いしないといけません。

鹿島 2020年がスタートになります。アンバサダーもそうですが、こういう時は予算もつけやすいですから、いいタイミングだと思います。

単独でやること、他地域と連携すること

鈴木 このような2020年に向けての活動を担っているのが2020年委員会で、新たな組織として誕生しました。

鹿島 僕が委員長を任されたのは、年齢が若いから。地域振興部会をお手伝いさせていただいて、その部会とメンバーが重なっているので、ここ1年は合同で活動しています。やはり今回は日本博。ルネッサンス委員会としてもHONBAくん以来、本格的な予算がついての大きなイベント。3年間の日本博、なんとしても成功させたいです。本格的な事業となるので、各分科会の代表の方に役割を振り分けさせてもらって、2020年委員会が事務局的に動いています。これからは2020年の後、組織をどのような形で残すのか、2020年委員会の2021年以降の活動について考えていかなければなりません。2020年委員会で動いていて感じたのは、ルネッサンス委員会は日本橋地域の振興という考え方がありますが、中央区も銀座や晴海地域などそれぞれの活動があって、銀座からは日本橋でやっているラグビーなどの先行事例について問い合わせがくる。日本橋エリアの中だけというのは、特に京橋とはお隣で接しているので、単

純に線引きしてしまうのはどうかと。これからは京橋や銀座など他の地域とも連携しないといけないと思います。京橋もだいたい人の集まるまちになりました。

工藤 日本橋地域単独でやることと、ほかの地域と連携でやることとあるでしょうね。

鹿島 レンタサイクルの活動も近隣5区でやっています。

工藤 それから隅田川流域四区（台東・墨田・江東・中央）で隅田川流域舟運観光連絡会を開催しております。舟が日本橋から出たら行き着く先（船着場）がありますから、それぞれ連携しながらやっていったほうがいいこともあるわけです。この隅田川流域での活動については、2010年から始まっています。

吉田 ここ数年、国内外からの日本橋への注目度は高いです。

視察会、セミナー…… 親睦を深め、知識を高める

鈴木 日本橋のことを頻繁にテレビや雑誌が取り上げるようになりました。鹿島さんのお話にもありましたが、このルネッサンス委員会の在り方は、ほかの地域からみると珍しくみえるらしく、よそにはあまりない存在のようです。

橋本 昭和通りの高速道路の話が出ています。関係している台東区、千代田区とも、便利に使うのは基本的には火葬場（町屋）に行く時だけなので必要ないという認識があるのですが、声を上げるリーダーがいない。

鈴木 そういう意味では、このルネッサンス委員会は仲がいいですね、懇親会をもっとやろうという声が上がっています（笑）。懇親会もですが視察会も盛んで、長野、徳島、韓国、最近ではベトナム、鹿児島、高知……視察会は親しさを深める場にもなっています。

工藤 小布施は参考になりました。地方の田舎まちだったけれども、昔からある酒蔵なんかをうまく活用し、今では有力な観光地になった。そういう苦労話を聞くことができました。以前、長崎へ行ったとき出島へ寄りましたが、出島らしさを感じませんでした。その後に行ったら、当時の街並みを再現して、素晴らしい観光地になっていた。どこの都市も特色を前面に出そうと頑張っています。

鈴木 中央区の森の活動についても応援しています。なお、ルネッサンスセミナーの第1回目の講師は陣内秀信先生（法政大学名誉教授・建築史家）で、水都である江戸東京について日本橋を中心にお話いただきました。このセミナーも次回で12回目、高島屋のバイヤーさん（畑主税さん）に和菓子の話をしてもらいま

す。毎回いろんなテーマで日本橋に関わる話を展開してもらってます。ルネッサンス委員会全体のセミナーとして、とてもいいなと思います。もう一つ、熙代照覧。記念誌にもありますが、このあたりの経緯は？

鹿島 これも山杣さんが熱心に取り組まれました。ドイツのベルリンの美術館から出てきて、ぜひ日本に持ち帰るべきと。



工藤 江戸東京博物館で里帰りの展覧会があって、それを機に複製ができました。

鈴木 今やこれを映像にしようと。

工藤 先日勉強会で訪れた凸版印刷さんの力をすれば作れますよね（笑）。

鈴木 未来に向かっての活動、先ほどの日本博に加えて、首都高の地下化も順調に進むと思います。

吉田 目標がまちづくりではなくなったので、今後は文化やスポーツに力を入れないと。

大切なのは、新住民との連携

鈴木 箱モノで賑わいをつくるのは進んできました。各不動産会社も積極的で、人口も増え、今や16万人、何年後かには20万人突破……行政が追いつかないほどです。日本橋とその周辺部に限って、という感じではあります。

橋本 日本橋の保健所の前、三井不動産が手がけているマンション、完売になったそうです。

鈴木 地域住民との関係というのは？

工藤 そこが問題になってくると思います。我々は昔から商売をやってきて地域に関わっていますが、新しくきた人がまちのことや、まちがやっていることを知らない。そこを上手くつなげていかないと未来はない。大伝馬町ではヒューリックという会社がビルの一部を開放して、町会と一緒にまつりをやっている。そういういい例もあります。

吉田 従来からいる人と新住民がどのように関わっていくか。

鈴木 浜町の盆踊りは盛り上がっていますね。

鹿島 あれは区外からも盆踊りの好きな人が集まりますから。

工藤 みゆき通りが広がったから、あそこで縁日でもやれはどうでしょう。先月行った神楽坂では通りの両サイドに屋台が出て、すごい人出でした。みゆき通りでやれば、人がいっぱいくると思うし、住民との融和が図れる。

鈴木 神戸市の商工会議所の方が、ルネッサンス委員会について聞き取りをしにきて感激していました。神戸は震災復興が一段落し、ソフト面はさてこれから、ということらしいです。

日本一のビル、常磐橋、常磐橋公園、150周年を迎える常盤小学校……

橋本 神戸は賑わいが減っていますね。東京駅の日本橋口の前に、手がけているのは三菱地所さんですけど、日本一の高層ビルができます。近くの常磐橋周辺が観光地になるんじゃないかと思います。常磐橋は都内最古の石の橋です。隣接する公園も倍くらいの広さになる。常盤小学校の150周年記念に合わせて、常盤小にアーカイブを保存する施設を作りたいということで、それを区でやってくれるということになりました。将来的には立派な観光案内所を作り、そこにアーカイブ室も設置したいと思っています。昔の人の話を聞いておかないと昔のことがわからなくなってしまうから、インタビューを録画し、現在編集中です。

鈴木 そこでまさに凸版印刷さんの動画ができれば、日本橋アーカイブスが常盤小学校の施設であることを印象づけられます。完成しましたら幹事会で見学に行

きましょう。

箱モノから文化へ——

吉田 先ほど申し上げましたように、箱モノとかまちの整備は一段落したので、これからは文化とか、住民も増えてきたので住んでいて楽しいまちづくりとか、そちらが重要になってくるかと。例えばロンドンも美術館を整備したり、そういった方向にシフトしています。

橋本 野村美術館が京都にあるので、日本橋に持ってこられないかという話をしたことがあるんですよ。

工藤 今お話があったように、この委員会がスタートした頃と比べると、かなり賑わいのあるまちになりました。9月にはコレド室町テラスもできて拍車がかかります。それから日本銀行、あれは他にありませんから目玉になり得る。また東京駅が近くにある、先ほど会長からお話のあった三菱地所さんが日本一のビルを作る、常磐橋御門の復活——石垣しか残っていないあそこに門ができるとぐっと雰囲気が変わってきます。

鈴木 ルネッサンス委員会のNPO法人化という話も出ましたが。

鹿島 本格的に議論もしたのですが、公益性の視点からエリアを限定できない、入ってくる人を拒めなくなります。他地域からも入って日本橋をいじることができる。そういうメリットデメリットを考えると……。地域振興部会と2020年委員会に関しては、事業はほぼ完成に近づいたという感じです。はな街道は仕組みがうまくできて回っていますが、これから継続してゆくのが困難な事業が多くなるのではないかと、これも課題です。それから他区との連携、他地域との連携が重要。銀座や京橋はもちろん、神田、江東区……どのように連携するのか。行政も含めて、そんなことも考えながら今後活動を進めてゆきたいと思っています。



前列中央から反時計回りに、橋本敬会長、吉田誠男氏、鹿島彰氏、工藤哲夫氏、鈴木佳之氏、堺美貴氏（広報部会長、書記として参加）

割烹
しんが
だ

〒103-0022
東京都中央区日本橋室町1-12-3
☎ 03-3241-1025

日本料理
ゆかり

東京都中央区日本橋3-2-14
☎ 03-3271-3436

RESTAURANT
たいめいけん

東京都中央区日本橋1-12-10
TEL. 03-3271-2463

江戸の美を贈りつづけて400年
団扇・扇子・紙製品の老舗

伊場仙
© IBASEN CO., LTD. SINCE 1590

創業 天正十八年(1590年)

〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町4番1号
TEL : 03-3664-9261 FAX : 03-3664-9266
URL : <http://www.ibasen.com>
MAIL : info@ibasen.com

BE THE CHANGE

さあ、街から世界を変えよう。

三井不動産
TRUST FORUMS

2020年東京オリンピック
2020年東京パラリンピック

ときわ総合サービス

お金をモチーフにした商品や
発行部数日本一の家計簿・PB
テキスト等の提供によりお客様の
「豊かで安心できる暮らし」
をサポートしています。

アクセスしてね



旅する人の、いちばん近くに。

ANA Traveler's
トラベラーズ



ANA
ANAセールス株式会社

無料巡回バス
ご利用ありがとうございます



メトロリンク日本橋



メトロリンク日本橋eライン

Hinomaru
日の丸自動車興業株式会社
<http://www.hinomaru.co.jp/>
本社 / 東京都文京区後楽 1-1-8 Tel 03-5689-0424

創業明治6年、
伝統と歴史を誇る劇場。

観劇のご予約・お問い合わせは・・・
明治座チケットセンター
営業時間 10:00～17:00
03-3666-6666

インターネット予約 **席とりくん** 検索

<https://web.meijiza.com/>

明治座

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1
浜町駅／人形町駅／水天宮前駅

東京は、
建物と物語で
できている。

建物に
物語を

 東京建物

技術の心 心の技術

Hair Salon
ONO

ヘアサロン大野グループ

＜東京エリア＞

鮎出専科日本橋店
iki日本橋店
都ホテル東京店
パーリングメソッド青山店
バルビエ藤田店
ニューオータニザ・メイン店
ニューオータニガーデンタワー店

＜大阪エリア＞

iki堂島店
大阪ヒルトン店
帝国ホテル大阪店
プラスメンズ阪急店
ニューオータニ大阪店

＜ベトナムエリア＞

ハノイ店
Barber's

CHIC TOKYO STAY

粋な街の、意気なおもてなし

日レアルパホテル

〒103-8520 東京都中央区日本橋蛸殻町 2-1-1
Phone : 03-3667-1111(代表) <https://www.rph.co.jp>

人と地球にやさしい、
環境制御・エネルギーの東テク。

東テク株式会社
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-11-11
TEL: 03-6632-7000
URL: <https://www.totech.co.jp>





Takashimaya^{NIHOMBASHI} S.C.

歴史ある証券の街・日本橋兜町

「銀行発祥の地」や「株式取引所発祥の地」などがある日本橋兜町・茅場町。明治以降、日本の証券取引の中心を担ってきたこの街は、世界有数の証券市場となっています。伝統ある街の景色を大切にしながら、新たなにぎわいの創出を目指しています。

 平和不動産
<https://www.heiwa-net.co.jp/>





子どもたちに
誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION 
清水建設



日鉄興和不動産



日本橋プラザビルは、地域の活性化を目的として中央区の所有地に建てられたビルです。店舗や多目的ホール・会議室、また広場も設け、地域の賑わいに貢献しております。

創立20周年を心からお祝い申し上げ、益々のご発展を祈念いたします。



日本橋プラザ株式会社
東京都中央区日本橋2-3-4 TEL.03-2321-2231

樓大栄

江戸から続く
梅ぼ志飴。

昔も今も頑固に三角。



栄大楼總本舗 <http://www.eitaro.com>

江戸より続く
問屋とまちのDNA、
その“継承”と“進化”

 横山町奉仕会

☎03-3661-1661

<http://www.tonya.or.jp>

NIHONBASHI
TOKINO KANE
CROSSING

江戸の人々に時を知らせてきた日本橋の「時の鐘」。
先人たちが創ったここにしかないストーリーに想いを馳せ、ここでしか感じられない新たなストーリーを紡ぎだす、＜人・歴史・文化が交差する＞日本橋の新しい滞在拠点。

 HOTEL KAZUSAYA
SINCE 1891

2020年・夏
リニューアルオープン

日本橋本町 時の鐘通り
www.h-kazusaya.co.jp



「人と人をつなぐ架け橋に」

私たち帝都自動車交通は、人と人をつなぐ架け橋となるため「人の移動」を安全かつ快適にお手伝いし、人々に真の豊かさを提供できる企業を目指します。

 KSEI GROUP

帝都自動車交通株式会社

本社:中央区日本橋1-21-5
電話:(代表)03-6262-3311
URL <http://www.teito-mot.com>

 YAMA
MOTO
YAMA

株式会社
山本山

東京都中央区日本橋二一五
電話〇三三二七一一三三六一(代表)

 JTB 感動のそばに、いつも。
東京交流創造事業部

創立20周年、誠にありがとうございます。
貴委員会と日本橋地域の、ますますのご発展に力の限り協力いたします。
交流創造のチカラで、日本橋地域が朝も昼も夜も人で賑わう“まち”であり続ける、活性化のお役に立てるよう、励んでまいります。

事業部長 池田 伸之

〒163-0454 東京都新宿区西新宿 2-1-1
新宿三井ビル 54F
TEL: 03-5539-5248

空間に
太陽と健康を
デザインする

これからも
日本橋の街づくりに
貢献して参ります。



窓ガラスの販売・施工
株式会社
タナヨー

20周年おめでとうございます
日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会様の
の益々のご発展を祈念しております



 株式会社スポーツ

(日本橋観光案内所/日本橋案内所/日本橋ごよみ編集部)

Nihombashi Restaurant Association
日本橋料理飲食業組合

Nihombashi Restaurant Association

Tasty & Safety

日本橋料理飲食業組合



<https://www.n-aji.com>

日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会
創立20年の歩み

発行日 令和元年11月18日

発 行 日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会

制 作 月刊「日本橋」

表 紙 橋本金夢

印刷所 小宮山印刷株式会社

